

## リンボウ寸言

### 『鉄道、終着駅、そして人生』

林 望

私自身は別段鉄道マニアではないのだけれど、鉄道には、そこはかたない郷愁がある。『三四郎』も『雪国』も『暗夜行路』も、みんな鉄道が背景にあった。その同じ意味と重さで、飛行機や自動車を感じることはできない。そう言えば、音楽や映画の世界だって、鉄道をテーマとするものは数多い。まして「終着駅」の懐かしさよ。みんなここからどこかへ旅立って行って、最後にはここに帰ってくるのだ。されば、鉄道には人生が往来しているのである。下関には、つまり、そういう味がある。

駅の思い出がギュッと詰まった一冊

### 『下関駅思い出文集』 1,000円

下関市民や下関駅を往来した思い出のある人たちにとって、三角屋根の駅舎はそれぞれの心象風景と重なるほどに、かけがえないものでした。だから3年前に焼失後、内外から多くの愛惜の聲が寄せられました。下関市では、それらを文集としてまとめました。竣工当時の駅構内、なつかしの名列車列伝、駅レイアウト図などのほか、市出身の著名人を含む300人以上の方のメッセージを収載しています。お入り用の方は、総合政策部広報広聴課までお問い合わせください。



ゼロハチサン

### 『083』第4号

うみ やま たいよう

2009年2月28日発行

編集人=福田章

ディレクター=大野金繁

アート・ディレクター=村上行信

写真=橋野栄二

編集委員=林望

発行=下関市

〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号

☎083-231-2951 (総合政策部広報広聴課)

制作統括=(株)電通九州

印刷=凸版印刷(株)

協力=西日本旅客鉄道(株)下関地域鉄道部

下関市の皆さん

アドバイザー

下関フィルム・コミッション 常任委員長 富永洋一

九州芸術学館山口校 代表 伊東丈年

○バックナンバーを希望される方は、

下関市までお問い合わせください。

☎083-231-2951 (総合政策部広報広聴課)

○下関市ホームページからも電子ブックで『083』が読めます。

<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/083/>

本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

次号予告 (2009年8月31日頃発行予定)

## 温泉ハイク

涌いてあふれる中にねている 山頭火



一の保温泉グランドホテルの桶風呂

### 編集後記

毎日片道1時間以上かけて車通勤している私にとって、鉄道は夢のような存在。座っていれば行きたいところに連れていってくれる。そして、忙しなく流れる時間に駅での停車という「間」を与えてくれ、ほっと一息つかせてくれる。駅では客が入れ替わり、その度に違う空間という「間」を生んでくれる。どこにでもありそうな、でもやっぱり下関にしかない、そんな様々な「間」を、関川さん、野村さんを始め、編集スタッフの皆さんと一緒に凝縮することができた一冊になったと感じています。(Y)

生まれて間もない頃、宮崎の油津から下関市彦島西山へ移り住みました。3歳までの短い期間でしたが、町田忍さんの「彦島は宝島」はどこか懐かしい映像に思えました。子供の頃、夏休みに両親のふるさとの長門市仙崎へ帰る際には、山陰線だと急行「さんべ」と「日本海」、美祿周りだと厚狹駅ホームの「アイスクリン」のおぼちゃんの声に心踊ったものです。そんな記憶をたどりながら、今号のビジュアルを展開しました。(M)

かの有名な「鉄道唱歌」(作詞・大和田建樹)。やっとここで下関を歌ったくんだりを一部再録すると、〈滴ち引く汐も早朝の 瀬戸と呼ばるる此海は 源平両氏の古戦場 壇の浦とはこれぞかし〉(景色のよさに誰も皆 来て住吉の一の宮 あわてて手荷物忘るなよ こそぞ終点下関) 七五調の文語体にこそ味がありますね。今回はJR西日本下関地域鉄道部の皆さまにたいへんお世話になりました。下関駅車両センターで、現役引退して海外輸出間近の旧車輛も見せていただきました。その時、派手な蛍光色の防護服やヘルメットを身につけたことも今はよき思い出。しばらく指差呼称する癖が抜けませんでした。(F)

### ◇アンケート

『083』は今これを手にとられたあなたのための情報誌です。つねに深い眼差しを心がけて、皆さまの役に立つ情報を、ワンテーマ方式で下関市から発信してまいります。第4号についてのご感想、及び今後特集してほしいテーマやとっておきのお知らせなどを、綴じ込みハガキでお寄せください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で24ページで紹介した「奥野寿久商店のかまぼこ詰め合わせ」を20名様に、関川夏央氏の著書『汽車旅放浪記』を3名様に、野村佐紀子氏の最新写真集『夜間飛行』を3名様にプレゼントします。応募締切は平成21年8月31日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



関川夏央著  
『汽車旅放浪記』  
(新潮社/1,785円)



野村佐紀子写真集  
『夜間飛行』  
(リトルモア/2,940円)